

百三十五万字の渾身の大作

目次

序

I

- 第1章 モンゴル出発六日前に「全面拒否」された
- 第2章 なぜ勇気ある抵抗は知られていなかったのか
- 第3章 モンゴルは国の調査から抜け落ちていた
- 第4章 「嘆願書」の単語が引っかかった
- 第5章 モンゴルへ足を踏み入れるまでに
- 第6章 居留民団長は努力の人だった
- 第7章 嘆願書を書いていた軍医

II

- 第8章 公文書館の厚い扉が開いた
- 第9章 嘆願書を無視することはできなかった
- 第10章 死亡記録から真実を追った
- 第11章 抑留体験者が見ていた「死」
- 第12章 抑留者を巡る意外な歴史があった
- 第13章 閲覧可の公文書館に賭けた
- 第14章 見たことがなかった資料に胸が震えた
- 第15章 日本政府が入手していない死亡記録があった
- 第16章 家族を喪ってしまった帰還者
- 第17章 抑留中死亡者の総数について追った
- 第18章 民間人抑留者が次々に死んでいった病院

III

- 第19章 嘆願書執筆者の抑留の足取りは
- 第20章 満洲「根こそぎ動員」の犠牲に
- 第21章 父の抑留がきっかけで孤児に
- 第22章 日本人抑留の現場を辿った
- 第23章 地獄の農場収容所の跡地へ
- 第24章 「暁に祈る」事件の真相に迫る
- 第25章 モンゴルには二人の日本人女性が抑留されていた

IV

- 第26章 個人記録から浮かび上がったものは
- 第27章 ソ連でも日本人の抵抗運動はあった
- 第28章 「第三の執筆者」の抑留こそ凄絶だった
- 第29章 帰還するには精神病患者を装うしかなかった
- 第30章 「収容所から来た遺書」の真実
- 第31章 無罪と処遇改善の嘆願書を出していた男
- 第32章 嘆願書の執筆者たちの帰国後は

V

- 第33章 『シベリアのサムライたち』を読み解く
- 第34章 他人の「身代わり」になろうとした抑留者
- 第35章 「スターリンへの感謝状」から見えるものは
- 第36章 通訳として抑留を生きた人たち
- 第37章 なぜ簡単に署名をしたのか
- 第38章 将官や高級将校は何をしていたのか
- 第39章 ソ連に魂を売ってスパイとなった抑留者がいた
- 第40章 関東軍総司令部の責任を考える

エピローグ 私の情報提供で国が記録を入手した

関連地図

関連年表

参考文献一覧

スターリンが日本人五十万人の強制連行を極秘指令した「シベリア抑留の日」から七十八年、「命の記録」を刊行

# 命の嘆願書

井手裕彦  
Ide Hirohiko  
モンゴル・シベリア抑留日本人の  
知られざる物語を追って

Ide Hirohiko  
井手裕彦

飢餓、極寒、重労働。

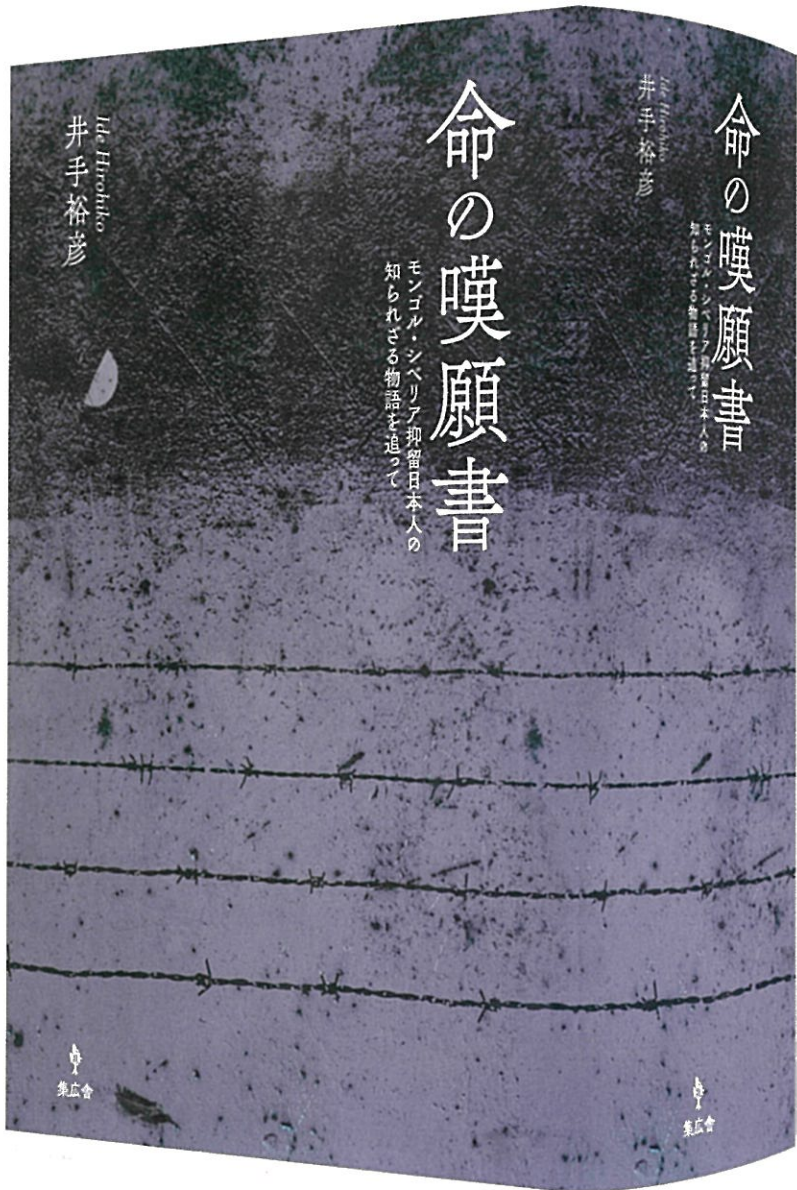
「殺してくれ」凍傷に倒れた同胞は死を願った。

生き延びるために抑留国政府を相手に自らの危険を顧みず

嘆願書を送りつけた三人の日本人がいた。

本書は、国家機密の壁を越え、その闇いを緻密に追跡した

元読売新聞記者による百三十五万字の記録である。



# 抑留という不条理に立ち向かった不屈の人の軌跡



満洲時代の久保昇



満洲時代の小林多美男



軍医時代の本木孝夫

## 新聞記者生活最後の年 著者はモンゴルへ向かった

「命」の呼称がある文書と云えば、第二次世界大戦中、ナチス・ドイツの迫害から逃れようとした多くのユダヤ人にリトアニアの日本領事館領事代理だった杉原千畝が発給した「命のビザ」が知られる。一方、私が見つけた「命の嘆願書」はモンゴルやロシアの公文書館の奥深くに「外交文書」や抑留の「公的記録」として厳重に保管され、誰の目にも触れず、歴史の中に埋もれようとしていた。

こんな抑留者やその妻、母、子がいかに真実を置き去りにしたまま、出会った記録を墓場まで持っていったものだろうか。新聞社を後にして筆を執ってから脱稿まで三年を要したが、私は伝えずにはおれなかったのである。

本書《序》より

## 一〇〇〇ページを越える 抑留者の死亡記録に……

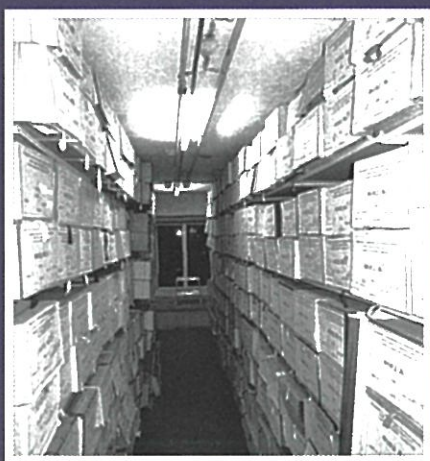
調査先の公文書館にて著者の目の前に現われたのは、抑留者の死亡記録が入った計一〇〇〇ページを超える複数のファイルだった。これを放置したまま立ち去れば、苦難にあえいだ死者の人生を見捨ててしまうことになる。自費で入手し、帰国後、二か月がかりで分析すると、日本政府に届いていない記録が次々に出てきた。今、本書（本書「エピソード」で二八三人の死亡者全員の氏名を公表する。命のある限り、一人でも多くの遺族に記録を届けたい。

### 遺族の方へ

著者にご連絡いただければ、資料を無償でお送りいたします。

電話：〇九〇―二七〇五―九九〇一

メール：idei5487@outlook.jp



ロシア連邦国立公文書館の資料保管庫

### 著者略歴

井手裕彦（いで・ひろひこ）。ジャーナリスト。一九七八年読売新聞大阪本社入社。社会部で主に調査報道を担当。論説委員、編集局次長、編集委員を経て二〇二〇年退社。一四年から二〇年まで羽衣国際大学客員教授（ジャーナリズム論）。自ら捜し出した抑留者の死亡記録を日本政府に情報提供するとともに遺族に届ける取り組みを行っている。

## 命の嘆願書

モンゴル・シベリア抑留日本人の知られざる物語を追って

井手裕彦 著

お申込み書店印

部

ISBN978-4-86735-048-5 | A5判 | 上製 | 1296ページ | 定価9680円(10%税込)

著者の持ち分に限り、8000円（振込手数料、送料、著者負担）でお分けします。上記著者連絡先に送付先を御連絡の上で振込手数料を差し引いてお振り込みいただければ郵送致します。■振込先：三井住友銀行南森町支店（店番号 129）普通預金 1511305 イデヒロヒコ名義